



図書館・美術館の事業と予定



図書館では、読書により親しんでいただくために、様々なイベントを通してお話し会を開催しています。12月は、職員による「出張お話し会」が開催され、富沢小学校低学年（1・2・3年生）を対象に、読み聞かせやクイズ・ゲーム、人形劇「つるのおんがえし」が披露され、普段と一味違った演出に子ども達は物語の世界に引き込まれていました。また、高齢者お話し会では、万沢地区サロン（下宿区）に出向き、歌や昔話、工作などを盛り込み楽しいひと時を過ごしました。コロナ禍、制限を設けながらの開催でしたが皆明るく元気に参加してくださいました。



・富沢小学校 お話し会



・万沢地区サロン（下宿区）

【図書館の予定】



- ・乳幼児リトミック教室
2月3日（水）午前10時30分～11時30分
講師：佐野貴子先生／長洞まゆ先生
- ・乳幼児おはなし会 のんたんのへや
2月10日（水）・17日（水）・24日（水）
午前10時30分～11時30分

※各種催し物は、新型コロナウイルス感染予防のため中止になる場合があります。なお、中止の場合はFM告知放送でお知らせします。

【美術館の予定】

【美術館 定期展覧会のお知らせ】

一早蕨作品展

会期：2月21日（日）～3月17日（水）
時間：午前9時30分～午後5時まで
休館日：月曜休館・祝日の翌日

毎年開催される早蕨作品展。油絵、絵画作品など会員の皆様の力作が展示されます。ご近所お誘いあわせご来場ください。

NEW 新着図書

おめでとうございます。
今年も宜しくお願い致します！



「あの人と短歌」

穂村弘著
NHK出版

「あの人」は短歌をどう読み解き、ことばとどのように対峙しているのか。北村薫、知花くらら、小澤實、里中満智子ら、16人の短歌好きとの対談をまとめる。

【ちょこっと豆知識！】

今年が丑年。丑という字は、手の指を曲げて物を握る様子を表した象形文字で、つかむ、からむという意味があります。糸へんに丑と書く「紐」にその意がうかがえます。中国の漢書では、「丑」は曲がる、ねじるという意味を持ち、芽が種子の内部で伸びきらない状態を表しているとされています。さて今年はどうのような年になるのでしょうか？

「夢幻」

上田秀人著

中央公論新社

徳川家康の嫡子・信康、織田信長の嫡子・信忠。偉大な父を持つ後継者と天下人との相克を横糸に、本能寺の変までの両家の連携と因縁を縦糸に紡ぐ戦国ドラマ。



「二人がいた食卓」

遠藤彩見著
講談社

毎日食卓を囲み、互いの気持ちや体調を察するのが夫婦のあるべき姿。お互いの気持ちを尊重し穏やかに過ごそうとはするが。



「雪のなまえ」

遠藤彩見著
講談社

不登校の小学5年生・雪乃。胸に抱える苦しい思いを吐き出すことができない雪乃。そんな雪乃の心を溶かしてくれたのは。



「遺言未滿、」

椎名誠著
集英社

もう終点に近い気配。その時、何を見て、何を想い、どう果てるのか。エンディングノートをめぐる17の旅を綴る。



「いとまの雪」上・下

伊集院静著
KADOKAWA

大坂夏の陣から70年。家老・大石良雄は、赤穂藩主・浅野内匠頭の清らかな心に惹かれながらも、危うさを感じ取る。日本史上最も有名な復讐劇を独自の視点で描く。



「じい散歩」

藤野千夜著
双葉社

明石家は夫婦あわせてもうすぐ180歳。3人の息子は全員独身。家族の可笑しみ、さりげない優しさを描き出した、現代家族小説。



「とんりき」

矢野隆著
新潮社

江戸最強の出版人、蔦屋重三郎の店で才能の開花を待つ、一九、馬琴、写楽、北斎を描く。『小説新潮』掲載を改題し書籍化。



成人・卒業 新たな一步を踏み出す方に贈るおすすめ本！

「未来の自分に出会える古書店」

齋藤孝著 文藝春秋

進路、受験、友情...。迷った時にこの一冊！中2と高2の兄弟が古書店「人生堂」の店主に導かれ読書を通じて成長していく姿を、著者初の小説スタイルで描く。